【実施区域・面積】

宮城県、3.9ha

【生態系タイプ】

里山林、水田、畑、湧水湿地

【実施区域の状況】

かつては農業を営んでいた地域、あるいは山の枯葉、薪の確保など積極的に人が利用してきた地域であったが、その後時代の変化に伴って半世紀近く放置されて荒廃した地域である。山林は植林したまま管理もされることなく、また稲作を営んでいた田んぼも今や葦が生い茂り水源も泥に埋まった状態となっている。

【目標】

一旦人の手が入り荒廃した自然を本来の姿に取り戻すために、在来生物の生息環境を整備して、より多くの種類の生物が共に棲息する環境を整備して、野生の動植物の生物多様性に富んだ地域にしていく。



【主な活動内容】

在来生物によるビオトープ整備、古来の稲作体験場所とし、有機栽培による水田の再生を行っていく。

【モニタリング計画】

直接観察と間接観察　環境DNA調査　定点調査　水温調査、水質調査、水生生物生息調査　糞、食痕、爪跡、足跡、体毛、におい、巣などの痕跡。移動調査　野鳥、昆虫等の生息調査により実態把握。直接採取、顕微鏡による観察、望遠鏡等による目視

【実施体制】

労働者協同組合気仙沼未来が本整備事業を企画、実行していき、自然塾は近隣に住む青少年を巻き込んで専門的知識を生かして調査・環境学習指導を行う。

【計画期間】

2023年3月～2031年2月